

CAGLIERO 11

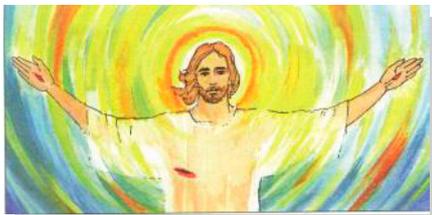
サレジオ会
宣教ニュース

カリエロ11

N. - 100! 2017年4月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



アレルヤ! 主イエスは3日目に、死の深い闇の中で、いのちに立ち帰るようと呼ぶ父の喜びあふれる声を聞きます。父の呼びかけの喜びを輝かせること、復活された方の喜びを輝かせることを、すべてのサレジオ会共同体も学ぶのは、これが根本的な理由です。

私たちは、昨年12月8日の総長の宣教の呼びかけを思い出します。総長は言っています。「世界における福音宣教の使命は私たちドン・ボスコのサレジオ会員に、境界を乗り越え、さらに開かれるよう求めています。教会から絶えず寄せられる、さまざまな場所、多様な人々の中での福音宣教の使命の実に多くの要請に応えるためです。」

福音宣教の使命が応答であることを、復活の光は理解させてくれます。世界のすべての人、特に若者は、罪と死に打ち勝った主のよい知らせを聞く権利があり、そのよい知らせに渴いています。

愛する兄弟-若い人も、それほど若くない人も、すべての人へad gentes、国を出てad exteros、生涯をかけてad vitam宣教に出かける用意があると表明する手紙を総長にあてて書くのに、まだ間に合います。今年9月の第148回サレジオ宣教派遣は、ほぼ用意が整いました! あなたの席だけまだ空いています!

ご復活、おめでとうございます!

J. Basares

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

今月、聖週間がご復活へと花開く時、イエス・キリストを告げる第一次福音宣教について、数年にわたって深められた考察が花開くのも私たちは目の当たりにしています。考察は5つの大陸での8回にわたる研修会で行われました。4月23日から30日にかけて、ブラジルのカチョエイラ・ド・カンポで、サレジオ・シスターズと共に、宣教の活性化と養成についての初めての地域研修会が開催されます。目的は、第一次福音宣教というテーマを理解し、深め、吸収することです。また、第一次福音宣教を体系化するため、具体的な教育司牧の歩みを探ります。私たちの事業のさまざまな部門におけるイエス・キリストを告げる第一次福音宣教の実践が、各管区で強化されることを私たちは願っています。

ブラジルに続き、各地で同じ研修会が開催されます: 東アジア-オセアニア、8月13日から20日、タイで; ヨーロッパ、2018年3月4日から11日、ファチマで; 最後に、アフリカ、2018年8月12日から19日、ヨハネスブルクで。世界の多様なすべての文化の中で復活された主を告げ知らせることは、教会の差し迫った継続的な使命です。お互いを豊かにする対話を通して、豊かな文化的伝統の中でイエス・キリストを告げ知らせなければなりません。世俗化が高度に進みながら、精神世界への大きな飢え渇きと生きることの意味の探求が見られる状況; 人々の心がよい知らせに大きく開かれている状況; キリスト者の間にある種の疲れが見られ、新鮮な活力が必要とされている状況など、さまざまな状況において。これらの状況は皆、現代に生きる人々の現実の一部です。いずれも、絶えず変化しており、地理的境界に縛られません。

私たちは世界に、特に若者に、幸せな、一貫した福音的生活のあかし、そして豊かで惜しみない愛を差し出します。それは次の問いを呼び覚まします。「そのような生き方をするのはなぜ?」牧者の知恵だけが、次のような「信仰の論理」をもってこのような「開かれた扉」に答えさせてくれるでしょう。「ドン・ボスコのようにわたしたちも皆、あらゆる機会に信仰の教育者となるよう召されている。そのため、最高の知識はイエズス・キリストを知ること、最大の喜びは、キリストの神秘の測り知れない富をすべての人に示すことである。」(会憲第34条)

私たちが一日中過ごす運動場、廊下、教室、実習室、事務室に、実に多くの“宣教地”があります。その一つひとつが、十全な意味での第一次福音宣教に何らかの形で取り組むよう私たちを呼んでいます。新しい本、『第一次福音宣教』がまもなく皆さんの管区長館に届くでしょう。この本は養成の道具です。今日、宣教師になるという挑戦に立ち向かう動機を、この本が皆さんにもたらしてくれることを願っています。



カリエロ11、祝100号!!! 宣教のためのこのささやかなニュースレターは、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、英語、フランス語、ロシア語、ウクライナ語、スロバキア語、チェコ語、広東語、韓国語、ベトナム語、ポーランド語、ドイツ語、日本語、カーシ語(インド北東部)、そのほか多くの言語で発行されています。シンプルで親しみやすいと同時に、宣教を活気づける効果的な媒体になっています。

「私の最高の喜びは、種が実を結んでいると知ることです」



先 住民族の人々の中で宣教師となる私の召命を誕生させてくれたのは、祖母でした。祖母は先住民族の血をひいていて、そのため私も遺伝子そのものの中にその人々との近しさを持っていたのです。

私はマナウスに生まれました。私たちは内陸部に移住し、狩猟や果物の栽培で命をつなぎながら8年間そこで暮らしました。ミサにあずかるために4キロの道のりを歩かなければなりません。一人のイタリア人の司祭が司式していました。私が小学校を終えたとき、私たちは町に戻りました。14歳になった私はカテキズムを習いはじめ、典礼で奉仕するようになりました。父が私たちに聞かせた“ボナノッテ”から、私はサレジオ会員について耳にしていました。父は、リオ・ネグロのサレジオ会の

学校で学んでいたのです。

高校卒業後、私は「子どもたちのためのドン・ボスコ」という社会活動でボランティアとして召命体験に参加しました。当時の管区長が語った言葉を鮮明におぼえています。管区長は私ともう一人の青年に言いました。「リオ・ネグロの先住民族の中で働く若者を我々は必要としている……」この言葉は私の心に深く刻まれました。

2006年、中間期中、私はマトウラカのヤノマミの人々の中で働きはじめました。その年、共同体の皆と一緒に、この先住民族の若者たちとその家族のためいくつかの活動を行いました：オラトリオ、教育、カテケージスなど。ヤノマミの人々と共に過ごしたこの豊かな体験の後、私はエルサレムのラティスポンに神学を勉強しに行きました。2013年、私はマラウシア川の先住民族の人々のもとに派遣されました。私はこのオベディエンツァを大きな喜びをもって受けました。

この4年間、ヤノマミの人々と共に働いています。学校の校長をしています。ここ2年、先生たちと私は人々のための要理教育を行い司牧に取り組んでいます。叙階と修道誓願の際の自分のモットーは、先住民族の人々の中で働く私の宣教召命と深く結びついていると思います。「私がここにおります。私を遣わしてください」(イザヤ6・8)は修道誓願のときのモットーでした。「み旨が行われますように」が助祭叙階のときの、「良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(ヨハネ10・11)が司祭叙階のときのモットーでした。

立ち向かわなければならない挑戦もあります：この地域で働くサレジオ会宣教師が少ないこと；この地域のヤノマミやその他の少数民族のための事業を発展させる物的手段が乏しいこと；共同体間の距離が非常に遠いことなどです。

アマゾンのサレジオ会宣教管区で過ごしてきた年月をふり返るとき、我らがサレジオ会員の労苦の実りを目にするのが私の最高の喜びです。本当に多くの会員が、この先住民族の人々へのミッションに生涯をささげてきました。受肉されたみ言葉の種は、この人々の心にすでに存在していました。宣教師たちはそれを目覚めさせ、芽を出すように助けたのです。今日、私たちは、この先住民族の人々の歴史の一部になっています。ここリオ・ネグロの地方で、善いキリスト者、誠実な先住民族の市民という形で豊かな実を結ぶ種を、私たちはこれからも蒔きつづけます。

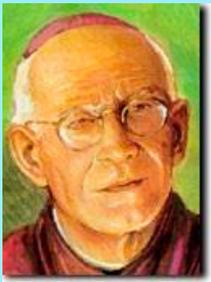
2017年サレジオ宣教の日のため、若者にメッセージを伝えたいと思います：先住民族の人々の中で働くことに「はい」と言うのを恐れなくてください。さまざまな文化の知恵を分かち合うため、この人々の中で働くあなたの存在が必要なのです。偏見なしに来てください。先住民族の人々の豊かさを発見してください。私たち皆が調和のうちに、互いの文化を尊敬しながら暮らすことは可能です。心が謙遜であるなら、知恵を分かち合うことができます。ドン・ボスコのサレジオ精神のうちに、文化の分かち合いという新しい体験、主の体験から学ぶのを恐れなくてください。

ブラジル、アマゾン-マトウラカ川ミッション院長、無原罪の御宿り州立先住民族学校校長 **ラザロ・サントス神父**



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエルルイジ・カメローニ神父**



最初のペルー人サレジオ会員、チャチャポヤスの司教、尊者**オクタビオ・オルティス・アッリエタ**(1878-1958)は、1922年の最初の司牧書簡で、教区の信徒に次のように語りかけています：「あなたが一家の父親であるなら、神への聖なる畏れを子どもたちに教えてください。家庭という甘美な神殿で、あなたはいと高き方の祭司であることを忘れないでください。そこでは、教えることと信心があなたに任されています。子どもたちの柔らかい心を形作るのが宗教でありますように。子どもたちが賢明で健康な、宗教と国に貢献できる人に成長し、いつの日か天国の幸いな住人となるのを見たいと願うなら。」



サレジオ会の宣教の意向

サレジオ会への召命のため

すべてのサレジオ会共同体が、主に呼ばれた喜びを輝かせますように。

若者のために「いのちをささげる」方法はたくさんあります。その一つは、可能なかぎりの愛をこめて祈ることです。若者一人ひとりが自分の召命に惜しみない心で応えるよう願うことは、人生を歩み始めようとしている人のために、何かより大きな、より良いものを願うことです。もしその召し出しが、網を置いて主の後に従うこと・主への全面的な奉獻を通して従うこと・であるなら、若者が心を全面的にかける、それ以上に大なる宝、より貴重な真珠はこの地上にほかにありません。しかし、肯定的な応答は、神の恵みが一人ひとりの自由と出会う場に隠された神秘でありつづけます：祈りは変わることなく、召命促進の主な手段になります。



Cagliari 11 (カリエロ11) の全バックナンバー：<http://salesians.jp/library/cariero>